

2016.7/21-7/26

田村みどり ガラス作品展



六角大皿 六弁花・フォルム
フュージング スランピング



ランプシェード・オーム貝
パート・ド・ヴェール スランピング



今週の展覧会は田村みどり先生によるガラス作品展です。会場に展示された作品は、透過性のある涼しげなガラスのものが多く、中にはランプシェードになっている作品もあり、光との共演を楽しめる展覧会です。



変形皿 空豆
フュージング スランピング



小鉢・藍の波頭
パート・ド・ヴェール



画像・イラスト等の保存・転載・無断利用はお断りします

ガラス作品の製作は、ホットワーク、キルンワーク、ランプワーク、コールドワークという分野で分かれています。普段、使用するガラスコップなどを作るためにはホットワークのブロー（吹きガラス）という技法で液状に溶けたガラスを扱いコップや器などの自由な形に変形させていきます。一方、田村先生が制作されているのは「キルンワーク (kilnwork)」というもので、キルンとは”窯”という意味を持っており、電気窯を使用してガラス制作をする事を指し、その中の「フュージング (Fusing)」「パート・ド・ヴェール」「スランピング (Slumping)」という技法を用いています。フュージングのフェーズ (Fuse) とは”融合”という意味を持っており、ガラスとガラスを重ね合わせたものを窯に入れ、熱を加え溶着させる技法です。パート・ド・ヴェールの特徴はホットワークと違い、溶けていない固形のガラスを石膏型などに詰めて窯で铸造する方法の事を指し、ガラスの中に細かな気泡を含む事が特徴で、細かなレリーフまで再現する事ができます。先生の制作されているほとんどの作品は、色のついた板ガラスをカットし、1枚の板状にフュージングしたものになります。仕上がったものを型に合わせ、もう一度電気窯に入れ熱を加えスランピング (Slump: はまり込む、落ちるといった意味) する事で器の形に沿って変形する事が出来ます。これらの工程を経て製作された作品は、温度によってツヤが無くなってしまったり色合いのものや黒く変色してしまうものがあり、細かな模様や色の配色には先生のこだわりを伺うことができます。